

# そよかぜ 57

2022/3/1

社会福祉法人長須賀保育園 編集人：広報委員会 発行人：堀口文男

「食べることって楽しい。」

ひとり食べが出来るようになりました。





毎日いただく食事が私たちの体を作り、生きる力になります。当たり前のようになっている食事に最も真摯に向き合っている栄養士。今回は保育園所属のお二人にインタビューしました。

ゆりかご保育園栄養士 大田佳央  
長須賀保育園栄養士 高須彩夏

**栄養士になっただけは？**  
**大田** 小さい頃からいつも一緒に遊んでいた祖父が病気で入院することになり、その際に、薬だけでなく食事からでも病気を予防し、改善することが出来るということを知りました。その時に栄養士という仕事に興味を持ったのがきっかけです。

**高須** 私は長須賀保育園の卒園児です。当時調理員で勤務していた伯母に憧れ、自分も料理を仕事にしたいな、と思いました。本音を言えば母が保育士だったので、どっちの仕事にするか迷った結果、ピアノが弾けないので保育士は諦めました。(笑)

**高須** 当時お世話になった先生方も数人いて、先生が私のことを覚えていてくれました。びっくりしましたが、本当嬉しかったです。こうして一緒に働けるなんて、不思議な感じがします。

**大田** 料理を作ることは本当に楽しいです。新しい料理にチャレンジしてみたり、意見を聞いて、工夫してみたり。自分の夢だった栄養士になってみて、楽しかったことや、やりがいを教えて下さい。

じ料理でも調味料や調理方法で違ってくるんですよね。毎日厨房に立ちますが、いろいろな変化があつて本当に面白いです。そして子どもたちや職員のみんなから「美味しい給食をありがとう」と言って貰えたとき。この言葉が、毎日の仕事を頑張ろうという活力になります。

「ありがとう」と言われたり、喜んでもらえるのは、嬉しいですね。高須さんはどうですか。

**高須** 「食へることは生きること」をモットーにしている私にとっては、自分の作った給食を子どもたちや職員の方々がたくさん食べてくれるだけで嬉しいです。食べてくださった方々から直接「美味しかった」という言葉をかけていただき、この仕事を選んで本当に良かったなと思っています。

その想いが日々の給食に込められているのです。日々子どもたちと関わり、気づかされた事などはありますか？

**大田** 給食の時間にクラスを見回ると色々なことに気がきます。味付けや食材のカット、食事の温度など、子どもたちに合わなかった時もあります。子どもは正直なのでそういう日はいつもより残食量が多いです。そのような日は何を変えれば良かったか振り返り、その都度改善

子どもたちの反応って大事ですよ。**高須** 長須賀保育園の厨房は園児からも見やすい作りになっています。子どもたちが食器の片づけに来た時などよく質問攻めにあいます。「今日のお味噌汁の具は何?」とか。(笑)夕方に洗いの物をしていると「今日の給食もおやつも美味しかったよ」と感想を言いに来てくれます。私は子どもの頃に「ご飯を作ってくれる母にそんな言葉を言えなかったな」と大人になって気づかされました。自分の気持ちや感謝の言葉を素直に伝える保育園の子どもたちはきっと素敵な大人になれると思います。

気持ちや伝えあうのは素敵ですね。この厨房内や職員との連携など、チームで動く上で大切にしている事を教えてください。

**大田** コミュニケーションと報連相を頭に入れて行動しています。現場では給食を提供する時間の制限もありますし、調理工程全体を見通した作業の把握や指示も行わなければなりません。普段から調理員や保育士の方々は雑談も含め、よく話しています。献立で悩んでいる時に先生方のリクエストを取り入れてアレンジしてみたり。何気ない会話から次の食事のヒントにつながる人が多いので



すよ。**高須** 私もコミュニケーションは大事にしています。あと、積極的に厨房に入るようにしています。私はその場の状況を見て必要な所に補佐できるようにしています。本当は皆さんにとって辛い所に手が届くような存在になれば良いのですが、そうなれるようになるまでには相当な時間がかかりそうです。

給食を作る人の想いに触れ、生きていく上での基本ともいえる食の安心・豊かさを担っているんだと、改めて感じました。これからも、美味しい給食が提供できるように頑張ってください。ありがとうございます。



毎日欠かせない食事と同じように、お茶を入れて一息つくことも私たちの大切な日常の一コマです。ひとりですたりお茶を飲むのも、リラククスできて良いですが、気心知れた友達とお茶を飲むのも楽しいですよ。

ケアハウスでは「葉っぱ喫茶」というものがあります。月1回程度、利用者さんがホールに集まってみんなでおしゃべりしながら、お茶を楽しみます。この時お茶やコーヒーと共にお茶請けをいただくのですが、こちらのお茶請けは職員が季節の雰囲気や存分に感じられるよう心を尽くした手作りのおやつです。

夏は具沢山ゼリー、秋は保育園の子どもたちと一緒に掘ったさつまいものスイートポテト、冬はじっくりゆで上げた小豆たっぷりのお汁粉など、どれも味わい深いものばかり。2月は春の訪れを感じる桜餅をいただきました。提供する際、器を変え、草花を添えたりと視覚が味覚を一段と引き立ててくれます。

急須やポットからそっとお茶が注ぎ出るとき、ふわっと温かな優しい空気が広がります。こころよいお茶の香りが、楽しい時間の始まりの合図です。





# 生活発表会

2月18日(土)は生活発表会でした。仲間と一つのことをやり遂げる達成感や、楽しくのびのび表現する充実感を味わい、さまざまな発表を通して子どもの成長を感じ、喜びを共有しました。



## 01 さとの保育園

日頃から、お友だちや先生に対して、嬉しかったこと・助けてくれたことなどを果物の画用紙に書き、木のオブジェに貼り付ける「ありがとうの木」という活動をしています。思いやりの気持ちを子どもたちに持ってほしいという想いから、始めました。

発表会の劇では、「ありがとうの木」という絵本とリンクするシナリオを考えました。子どもたちの手形で葉っぱを、劇中の動物たちが貸し出す手袋やマフラー、帽子などを掛けられるような立体的な木や枝を、保育者が作りました。思いやりの気持ちを受け継ぐ内容に、子どもたちの成長が見られます。他にも、保育園で出来るようになった鉄棒やピアノカ、ひらがなを「こんなにできるようになったよ！」と保護者の方の前で披露することができました。

## 02 うみまち保育園

今年の年長テーマは『水』。学ぶなかでも、子どもたちが特に感じていたのは、干潟遊びの海に落ちていたゴミのことでした。

「スイミー」や「アルバ」という絵本を読み、きれいな海を守るために何ができるのかを話し合い、その内容を発表会の劇に取り入れました。使用した小道具は、廃材を集めて製作を行うなど細かいくらいまでこだわっています。海の生き物たちは、みんなで協力して描き、ペーパーサートで表現しました。

1年間学んだこと・感じたことを、ぎゅっと詰め込んだ劇『スイミー』。お父さんお母さんへ、想いが届くよう、気持ちを込めて最後まで頑張ることが出来ました。



## 03 長須賀保育園

ダンススクールに通うなど、最近はダンス好きなお子さんが多くなっている印象です。そんな男の子が選んだ曲は、Snow Man の「ブラザービート」。普段から練習する姿がよく見られました。

衣装は子どもたちと一緒に考え、「Snow Man みたいにかっこよく」との意見から、着なくなった服や不要な布などを保護者の方から頂き、素材として活用。色や形など本人たちのアイデアを絵に描き起こして、手作りワッペンや世界にひとつだけのオリジナル衣装を作成しました。ダンス練習を通じてチームワークも高まり、素敵な衣装を身に纏って「僕もあの人みたいに踊りたい」とキラキラした顔で本番もかっこよくキメてくれました！